

MACROCOSM



CONTENTS

- 2 平成26年度国際青年育成交流事業(国際青年交流会議)
- 4 平成26年度国際青年育成交流事業(地方プログラム)
- 7 日本・ASEANユースリーダーズサミット
- 8 第41回「東南アジア青年の船」事業(課題別視察)
- 10 第41回「東南アジア青年の船」事業(地方プログラム)
- 12 国際理解教育支援プログラム

マクロコズム

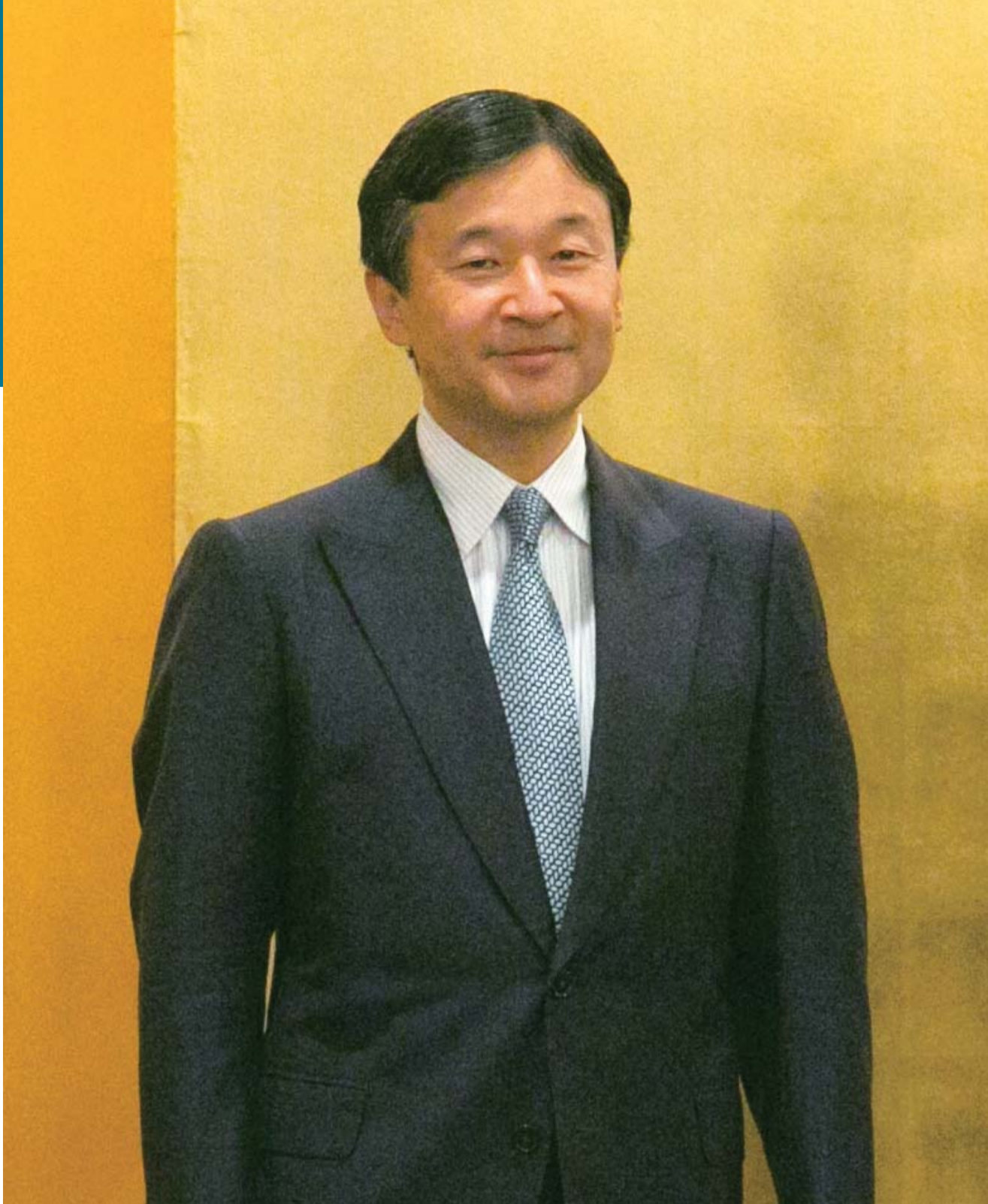
平成26年度国際青年育成交流事業 国際青年交流会議 レセプション

日程：平成26年9月26日

場所：ホテルニューオータニ東京

国際青年交流会議は、平成6年度に皇太子同妃両殿下の御成婚を記念し開始された国際青年育成交流事業の一環として開催される青年たちのための会議です。

この会議では、国際青年育成交流事業により海外に派遣される日本青年及び海外から日本に招へいされた外国青年が一堂に会し、討論を行うことにより、青年の社会参加への意識を高め、社会活動を促し、もって参加青年の育成と国際社会の一層の発展に資することを目的として実施しています。3日間のグループ討論や視察をまとめたディスカッション成果発表会はホテルニューオータニ東京で行われ、その後のレセプションには皇太子殿下の御臨席を賜りました。



参加青年とお話される皇太子殿下



レセプションでの有村治子内閣府特命担当大臣による主催者あいさつ



ディスカッション成果発表会



レセプションにて交流する参加者たち

International Youth Conference

国際青年交流会議（ディスカッション・プログラム）（9月24日～26日）

国際青年交流会議では、ドミニカ共和国、エストニア共和国、ヨルダン・ハシェミット王国、ラオス人民民主共和国、カタール国、タンザニア連合共和国から招へいされた54名の外国青年と、9月にドミニカ共和国、エストニア共和国、ラオス人民民主共和国の3か国に派遣された日本参加青年等48名を対象に合宿形式のディスカッション・プログラムが成田エクセルホテル東急にて実施されました。このプログラムは「青年の社会参加」を共通テーマとし、環境、教育、文化の各分野についての討論を行うことにより、青年の社会参加への意識を高め、社会活動を促し、国際社会の一層の発展に資することを目的としています。

環境コース

テーマ：水に関する環境問題の解決に向けて私たち青年ができる取組



有明水再生センターにて水再生処理についての説明を聞く



小グループでディスカッションをする

教育コース

テーマ：グローバル化の進む現代社会で活躍できる人材育成



千葉県立成田国際高校にて生徒と交流する



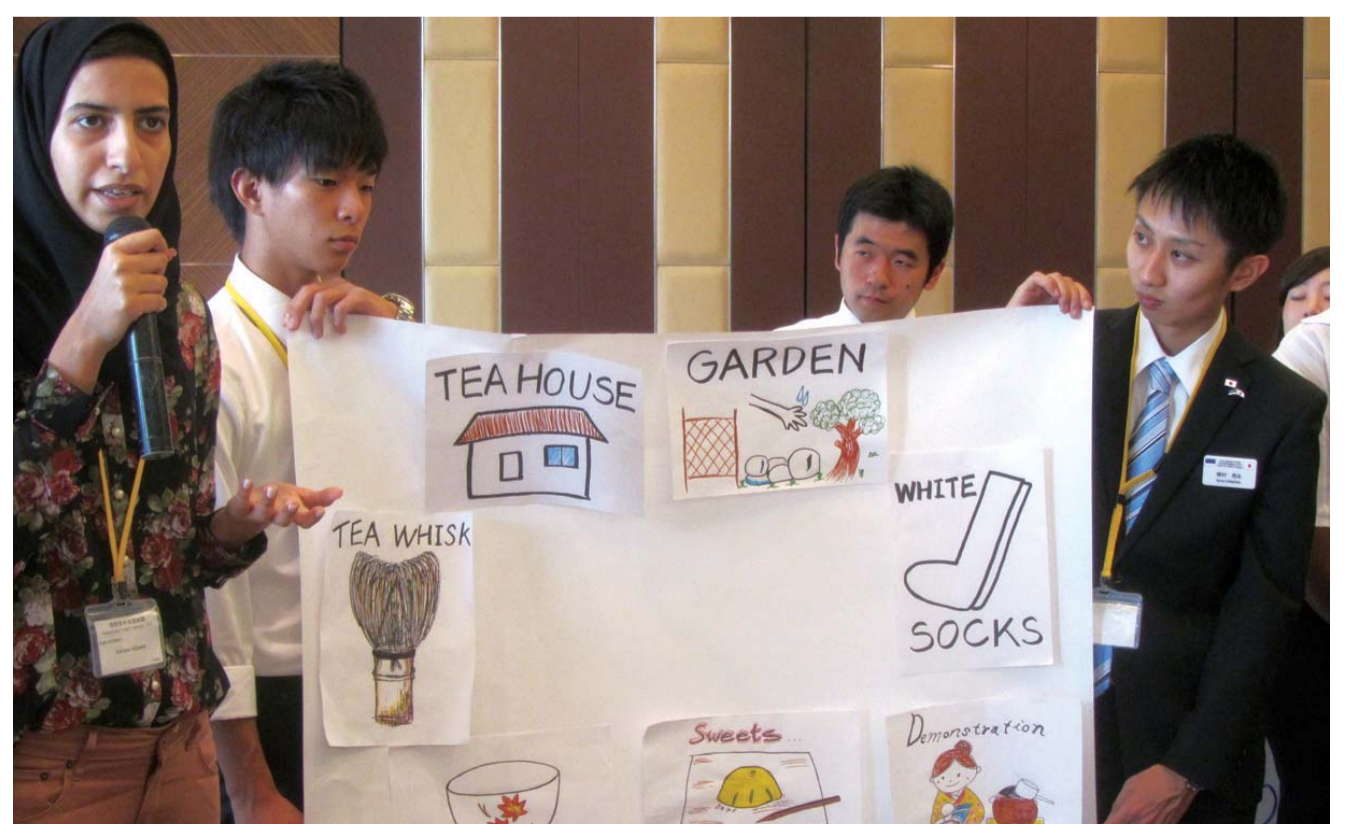
話し合った内容を模造紙にまとめ、発表の準備をする

文化コース

テーマ：伝統文化を継承するために私たち青年ができる取組



裏千家東京道場にて茶道体験を通して日本の伝統文化を学ぶ



グループで話し合った内容を発表し、共有する

地方プログラム

外国参加青年は9月27日(土)～10月5日(日)、3グループに分かれて地方プログラムに参加しました。ラオスとタンザニアの青年は、石川県と富山県を、ドミニカ共和国とカタールの青年は愛媛県と徳島県を、エストニアとヨルダンの青年は函館市と岐阜県を訪問しました。石川県、愛媛県、函館市では地元青年との2泊3日のディスカッション・プログラムに参加し、富山県、徳島県、岐阜県ではホームステイを体験しました。

■石川県



中西吉明石川県副知事を表敬訪問する



書道体験を通して日本の文化に触れる



地元青年と話し合った内容を模造紙にまとめて発表する



和食づくりを通して日本の食文化を体験する

■富山県

受入実行委員会の感想

富山県青年国際交流機構会長 日南田 美幸

今回の受入れは「子どもたち」がキーワードになりました。行く先々で14歳の挑戦(中学生職業体験プログラム)の子どもたちと接する機会がありました。帆船海王丸乗船時も100名余りの小学生が課外授業で乗船しており、青年たちと楽しそうに交流していました。伏木高校訪問では、クラスに分かれての交流の時間に、生徒が熱心に外国青年の話をお聴きしていました。全校集会では、外国青年が一生懸命に自国を紹介し、生徒も懸命に学ぼうとしていました。短い時間でしたが、小、中、高校生と接点があったことは、貴重な思い出になったことと思います。

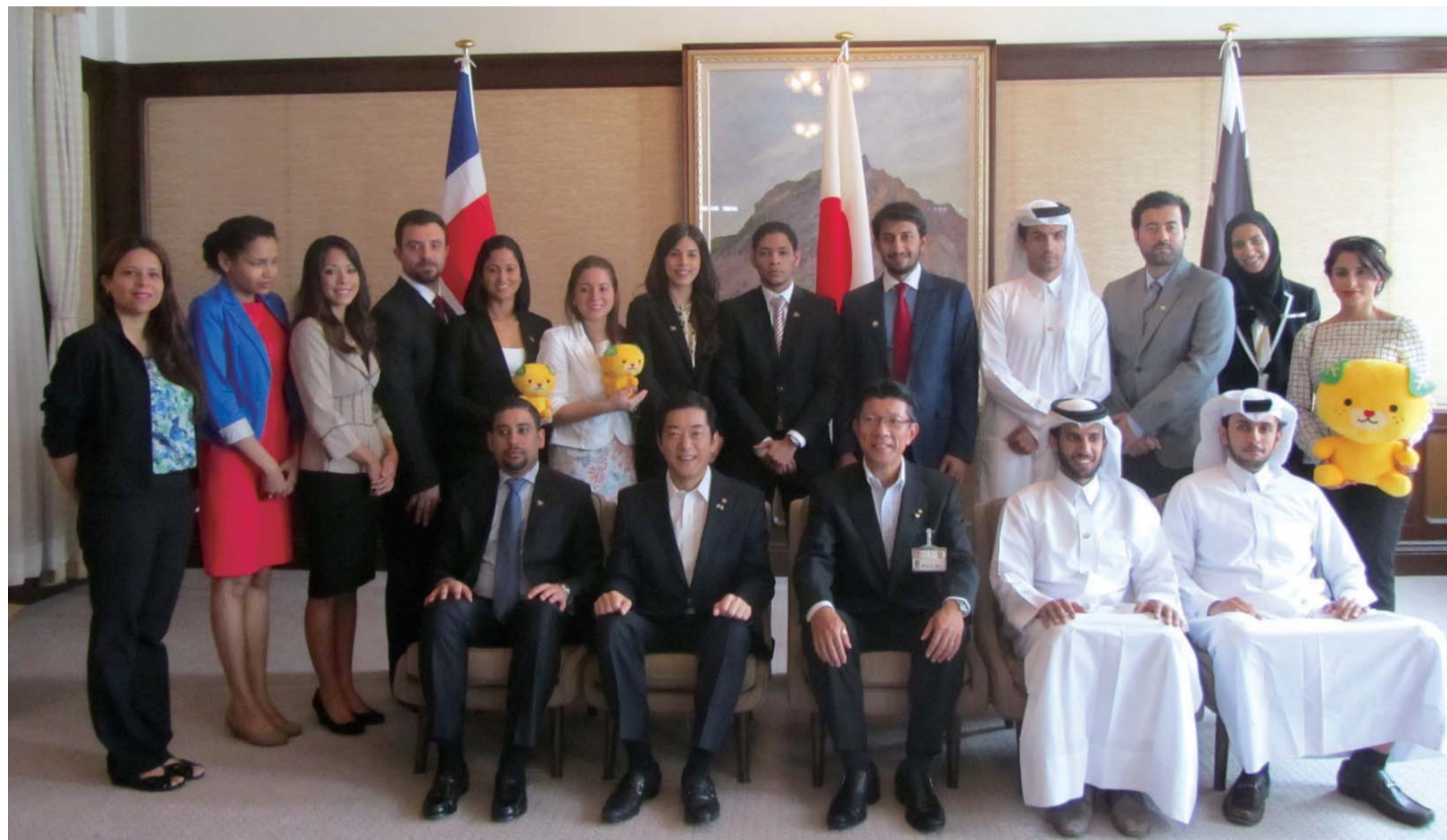
偶然にも、昨年の国際青年育成交流事業に参加したラオス青年が日本に留学していたので、富山での「ホストファミリー説明会とラオス理解講座」の際に、講師として事業説明やホストファミリーへのアドバイスをしてもらいました。実体験にもとづくお話には説得力がありました。富山ではラオスと活発に交流している「南砺ラオス会」という団体があり、今回、この団体の方々とお話できたラオス青年もいたようで、帰国された後も何らかの形でつながりができるとよいと思っています。

以前、タンザニア講演会を実施した際に、JICAの青年海外協力隊員OB会の方にお話をいただきました。その講師の方から、今回の国際青年育成交流事業に参加する青年の中にJICAタンザニア事務所の人がいるということを知っていましたが、その人が実際に富山県を訪れ、お話をすることができました。世界がつながっていることを実感しました。



帆船海王丸の内部を視察する

愛媛県



長谷川淳二愛媛県副知事を表敬訪問する



だんじり体験をする



西条市の名誉市民であり、新幹線の生みの親である十河信二氏の記念館を訪れる



ディスカッションした内容を発表する

徳島県

ホストファミリーの感想

永峰 誉之

二泊三日という短い日程での受入れでしたが、ドミニカ共和国の青年と交流することができた私たちにとっては、大変有意義な時間でした。

彼と対面し一緒に帰宅した初日の夜、片言の単語でしか英語ができない私たちに対し、彼はとても親切かつ丁寧に話をしてくれ、仕事や家族のことを伝えてくれました。

彼がお土産として持参してくれたラム酒を一緒に飲みながら夜遅くまでお互いの国の文化や教育などについても語り合うことができ、今までよく知らなかったドミニカ共和国という国のことも知ることができました。

二日目は彼の希望もあり、徳島県の観光地ということで四国遍路の1番札所「霊山寺」や渦潮で有名な鳴門市内を観光し、その日もまた夜遅くまで昼間の出来事や食事の文化などについて熱く語り合いました。

また、建築技師だという彼の目には日本の工事現場における防護ネットなど、日本では当たり前な安全対策も新鮮に映り、感嘆の声をあげていました。

このような貴重な経験をさせていただくことができ、徳島県IYEOや内閣府の方々には感謝するとともに、今後ともぜひ事業の継続と受入れのお願いをしたいと思います。



地域視察で祖谷のかずら橋を訪れる

■ 函館市

ディスカッション参加青年の感想

松ヶ平 美里

プログラムでは、グループごと（環境・教育・文化）の講義とディスカッションがメインに行われ、最終日の成果発表を念頭に置きながら、外国青年との交流を楽しんだ。

はじめは日本青年、外国青年ともに、どのように交流を図ればよいのかと多少の戸惑いを感じられたが、打ち解けるのは早かったように思う。

環境グループでは大沼公園で講義が行われた。ガイドの金澤さんの豊富な知識と解説により、人と自然環境の関係について改めて考え直すことができた。それを受けてのディスカッションは、私自身の英語力を悔やむ場面も多かったが、外国青年の価値観や文化に触れることができ、非常に興味深いものとなった。議論の中で外国青年が、日本人が家の外もきれいに保っていることを褒めていたのが印象に残っている。

また、日本青年同士の交流からも刺激を受けた。それぞれの渡航経験を聞き、今後の夢・目標を共有したことで、新たにがんばろうという気持ちが私の中に芽生えた。短い期間ではあったが、なんだかとても良い仲間意識が生まれたと思う。

このプログラムは私にとって、異文化交流の場であり、新たな友人との出会いの場、そして自らを省みる場であった。このような場を提供していただいた関係者の皆様には、改めてお礼を申し上げたい。そして、このプログラムで出会った友人たちにも、心からのありがとうを伝えたい。



グループに分かれてディスカッションをする

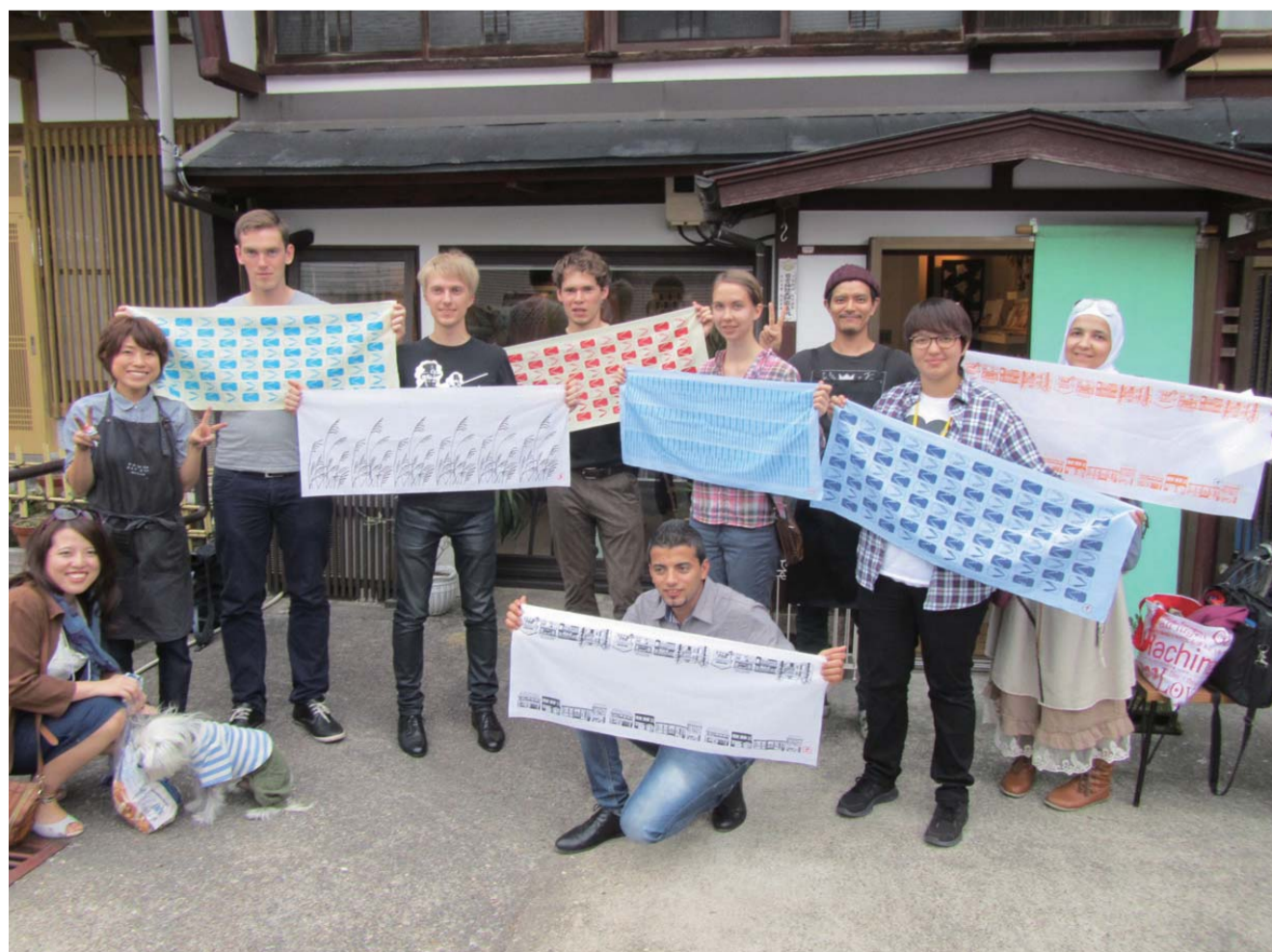
■ 岐阜県



新田晃岐阜県環境生活次長と記念品の交換をするエストニアの団長



長良川鉄道に乗り、郡上八幡駅に到着する



オリジナル手ぬぐいの作成体験をする



藍川東中学校を訪れ、書道体験を通じて生徒と交流する

第41回「東南アジア青年の船」事業

「東南アジア青年の船」事業は、昭和49年に、日本とASEAN（東南アジア諸国連合）加盟国との共同事業として発足し、その後、毎年実施され、今回で41回目を迎えます。この事業には、現在、ASEAN10か国と日本が参加し、船内及び訪問国において各種の交流活動を行うことにより、日本及び東南アジア諸国の青年相互の友好と理解を促進し、青年の国際的視野を広げ、国際協調の精神の醸成と国際協力における実践力の向上を図り、もって国際化の進展する社会の各分野で指導性を発揮することができる青年を育成するとともに、青少年健全育成活動に参加青年が寄与すること等を目的としています。

日本・ASEANユースリーダーズサミット



参加青年から挨拶をお受けになる秋篠宮妃殿下並びに佳子内親王殿下

平成26年11月2日(日)～11月5日(水)「東南アジア青年の船」事業の国内プログラムの一環で、「日本・ASEANユースリーダーズサミット」が開催されました。日本と東南アジア諸国連合(ASEAN)各国及びASEAN各国相互の連携を強化するために、より多くの青年が日本とASEAN各国を結ぶネットワークに参加することを目的として、駐日ASEAN各国大使館及び日本アセアンセンターと連携して行われるディスカッション及び文化交流を中心とした合宿型プログラムです。

11月4日には、駐日ASEAN各国大使館及び国際機関日本アセアンセンター、110名の一般来場者も加わり、開会式、パフォーマンス披露、各国展示が行われました。そのうち、パフォーマンスには、秋篠宮妃殿下並びに佳子内親王殿下の御臨席を賜りました。

「日本・ASEANユースリーダーズサミット」には、日本で公募されたローカル・ユース93名、「東南アジア青年の船」事業の参加者326名及び実行委員や運営関係者約100名が参加しました。

ディスカッションテーマ

“Youth Participation in Social Activities – How can you contribute in creating better society towards 2020?”

「青年の社会活動への参加－2020年にむけてより良い社会を創るために、自分自身ができることは何ですか？」



フィリピン参加青年によるパフォーマンス



ブルネイ参加青年による展示ブースを訪れ、ブルネイの伝統的な遊びを体験するローカル・ユース



8グループに分かれてディスカッションする



より良い社会の創造についてディスカッションした内容を模造紙にまとめて発表する

第41回「東南アジア青年の船」事業は、10月29日に外国参加青年286名(ナショナル・リーダー含む)及びその他事業関係者が来日し、翌30日に日本参加青年40名(ナショナル・リーダー含む)が合流し、プログラムが開始されました。

国内プログラム

月日	日程
10月29日(水)	日本参加青年出航前研修、外国参加青年等来日
10月30日(木)	オリエンテーション、参集式・歓迎レセプション
10月31日(金)～11月3日(月)	地方プログラム(山形県、長野県、愛知県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、佐賀県、長崎県、熊本県、神戸市)
11月2日(日)～5日(水)	日本・ASEANユースリーダーズサミット
11月6日(木)	秋篠宮同妃両殿下御引見・総理表敬(代表者のみ)、課題別視察(下記詳細あり)、乗船(東京・晴海)
11月7日(金)	オープンシップ、出航式、出航

運行スケジュール

月日	寄港地
11月7日	東京(出航)
11月13日～16日	ムアラ(ブルネイ)
11月19日～23日	シアヌークビル/プノンペン(カンボジア)
11月28日～30日	ヤンゴン(ミャンマー)
12月5日～8日	スラバヤ(インドネシア)
12月17日	東京(帰港)

課題別視察

11月6日には、船内で実施されるディスカッション活動のテーマ別に視察が実施されました。

テーマ	視察先
青年の起業	特定非営利活動法人エティック
	株式会社旅と平和(パクチャーハウス東京)
異文化理解促進	一般財団法人言語交流研究所ヒッポファミリークラブ
環境(自然災害と防災)	内閣府(防災担当)
	防災ガール
	本所防災館
食育	株式会社タニタ総合研究所
	内閣府 食育推進室
保健教育(HIV/AIDS対策)	ぶれいす東京
	東京都エイズ啓発拠点事業HIV/AIDS情報ラウンジ ふぉー・てぃー
国際関係(日・ASEAN協力)	国際機関日本アセアンセンター
	特定非営利活動法人開発教育協会
学校教育	東京都立田柄高等学校
情報とメディア	電通若者研究部
	毎日新聞社(東京本社)

■青年の起業



特定非営利活動法人エティックを訪れ、起業家支援、社会起業、地域とのかかわりや復興支援について話を聞く



「世界青年の船」事業の既参加青年で起業家の佐谷恭氏のレストラン、パクチャーハウス東京にて自身の起業に至るまでの経緯と経験、事業と社会との接点の持ち方について話を聞く

■異文化理解促進

訪問先：一般財団法人言語交流研究所ヒッポファミリークラブ
<https://www.lexhippo.gr.jp/organization/>
 国や人種の違いを超えて、どんな言語を話す人ともコミュニケーションできるようになれたらという思いから1981年に設立された団体。主に「多言語の自然習得活動」、「国際交流活動」、「研究・開発活動」の三つを柱として活動している。訪問時にはone day host familyと共に文化・言語交流のアクティビティを行った。

■食育

訪問先1：株式会社タニタ総合研究所 <http://www.tanita.co.jp/>
 体重計等の大手計測器メーカー。タニタが提唱する健康とは、食事と運動、休養をバランスよくとることである。訪問時には、「食べ物の摂取と運動」について講義を受けた後、実際に体重や筋肉量の測定を行った。

訪問先2：内閣府 食育推進室 <http://www8.cao.go.jp/syokuiku/index.html>
 「食育」とは、生きる上での基本であって、知育・徳育・体育の基礎となるものであり、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることである。訪問時には担当官より、日本における食育の現状や政府としての方針、取組みについての説明を受けた。

■環境(自然災害と防災)



防災を若い女性にとってもっとおしゃれで親しみやすいものにしたいという「防災ガール」の理念について聞く



本所防災館を訪れ、大地震の体験をする

■保健教育(HIV/AIDS対策)



ぶれいす東京のスタッフから日本におけるHIV/AIDSの現状について話を聞く



東京都エイズ啓発拠点事業HIV/AIDS情報ラウンジ ふぉー・てぃーを訪問し、情報ラウンジを見学する

■国際関係(日・ASEAN協力)



国際機関日本アセアンセンターを訪れ、日本とアセアン諸国における貿易、投資、観光交流についての説明を聞く



特定非営利活動法人開発教育協会による貿易ゲームのワークショップに参加する

■学校教育



東京都立田柄高等学校を訪れ、持参した伝統織物を見せながら自国の文化を紹介するラオスの参加青年



日本の伝統文化を学ぶ特別クラスを見学し、三味線体験をするインドネシアの参加青年

■情報とメディア

訪問先1：電通若者研究部
<http://dii.dentsu.jp/project/wakamon/>
 電通若者研究部(通称:ワカモン)は、若者のリアルな実態・マインドと向き合い、彼らの「今」から、半歩先の未来を明るく活性化するヒントを探るプランニングチーム。訪問時には、現代の日本の高校生・大学生を中心とした、10～20代の若者の特徴やソーシャルメディアとの接点について、日本の社会背景を踏まえた説明を受けた。

訪問先2：毎日新聞社(東京本社) <http://www.mainichi.co.jp/>
 毎日新聞社は1872年東京で創立された日本の主要新聞社の一つ。ビジネス、スポーツ、芸術、エンターテインメント、トラベル等の情報を提供している。参加青年は編集局を視察した後、大学生が運営している「キャンパル(キャンパス+パル)」という独自の編集チームの編集長および学生記者から直接話を聞き、質疑応答も行われた。

地方プログラム

参加青年は10月31日～11月3日、11のグループに分かれて山形県、長野県、愛知県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、佐賀県、長崎県、熊本県、神戸市を訪問しました。訪問先では、表敬訪問、ローカル・コースとのディスカッション、施設訪問や日本文化体験を行いました。また、ホームステイでは、ホストファミリーに温かく迎えられ、日本の日常生活を体験することができました。

■山形県



指導を受けながら、けん玉の絵付けを体験する

■愛知県



名古屋友禅の染物体験をする

■長野県

ホストファミリーの感想

外国の方との交流が初めてで英語が不安だったのですが、日本の青年が一緒だったので、通訳してもらい助かりました。祖父母も含め家族全員が二人の参加青年と、本当の家族のように接することができて、充実した内容の濃い3日間でした。長女（小1）がすぐに仲良しになれ、英語が分からなくてもコミュニケーションができたことや、ベトナムと日本の違いについて質問できたことがうれしかったです。長女が英語やベトナムに興味を持つきっかけとなり、幼少期からのこのような体験が今後の成長に大きく関わるのではないかと期待しています。最後のお別れのとき、長女は号泣していました。参加青年の Tien から、「大きくなったら参加青年になって、ベトナムに来てね。ホストファミリーで受け入れてあげるよ」と言ってもらいました。このような形で外国の方と知り合いになるのは、普通に暮らしている中では体験できない貴重なことですので、この出会いを大切に、これからも二人との交流ができたらうれしいです。船から手紙を出すねと言われ、にやにやしていた娘。さっそく「お手紙を書くんだ」と一人でせっせと書いていました。



善光寺を訪れる

■鳥取県



平井伸治鳥取県知事を表敬訪問する

■島根県

受入実行委員長の感想

国際ネットワークしまね 受入実行委員長 築谷 聡美

今回実行委員長を務めるにあたって、はじめは自分の役割も分からず、不安でいっぱいでした。そこで、まずは参考になる情報を集めてみようと思い、「世界青年の船」事業で培ったネットワークをいかして友人に過去の経験を聞いたり、プログラムの組立てについて相談をしたりしました。それによって少しずつ取り組むべきことが分かり、実行委員会の仲間に助けられながら準備を進めることができました。そして、事前準備の合宿を含め、慌ただしく準備を終えて当日を迎えてからは、出会った青年たちの笑顔と彼らに楽しんでもらおうと一生懸命にかかわっていくローカル・ユースの姿を見ることができました。

島根県では今までローカル・ユースと連携して事業を進めることが少なく、学生などの地域の力をなかなかいかす機会がありませんでした。今回の受入れは、ローカル・ユースを積極的に巻き込む良い機会になりました。今後は、彼らのような地域の力もいかしながら、活動をしていきたいです。



太鼓の打ち方を教えてもらいながら体験する

■岡山県



「くらしの中のあるもの探し」をテーマとし、日常の中に眠る貴重な文化、人材などを発見し、話し合う

■広島県



広島焼きを作り、地元の食文化を体験する

■佐賀県



古川康佐賀県知事を表敬訪問する

■長崎県



ホストファミリーと対面し、笑顔で挨拶をかわす

■熊本県



アセアンと日本の未来の在り方について熊本県立大学の学生とディスカッションし、全体で共有する

■神戸市



「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」を訪問し、地震発生 の仕組みについてボランティアの方から説明を聞く

一般財団法人 青少年国際交流推進センター主催
国際理解教育支援プログラム



国際理解教育支援プログラムは、学校等からの依頼に基づきプログラム全体の企画や運営に協力し、内閣府青年国際交流事業の参加経験がある在日外国青年等を講師として依頼先に派遣して授業を行うプログラムです。プログラムを通じて国際的な視野を持つ青少年の育成にも貢献しています。

■平成26年度 第5回

日付	平成26年9月29日(月)
実施先	神戸大学大学院人間発達環境学研究科
担当者	国際交流サポートルーム(COTIE) 齋藤宜子氏
実施協力団体	兵庫県青年国際交流機構
対象	神戸大学学生
プログラムの目的	各国のプレゼンテーションやディスカッションを通じて交流を深め、参加学生が各国についての知識を深める。さらに、内閣府が実施する青年国際交流事業についても紹介し、学生の関心を高めてグローバルな視点を養う。
プログラム	13:00-13:30 アイスブレイクと導入 13:45 イエメンの講師からの自国紹介 14:25 グループ・ディスカッション①(カルチャーショックについて) 15:00 モーリシャスの講師からの自国紹介 15:25 グループ・ディスカッション②(旅行について) 15:50 プログラムのまとめ・終了
派遣講師	Mr. Hani Al-Shareef (イエメン) Mr. Nirvaan Seedoyal (モーリシャス)



イエメンの講師による自国の紹介の後、小グループに分かれて「カルチャーショック」について英語でディスカッションをする



モーリシャスの講師の自国紹介の後、小グループに分かれて「旅行」について英語でディスカッションをする

■ 受入担当者の感想

神戸大学大学院人間発達環境学研究科 国際交流サポートルーム(COTIE)
 コーディネーター 齋藤 宜子

神戸大学発達科学部では、初めて一般財団法人青少年国際交流推進センターと兵庫県青年国際交流機構と連携して、国際理解教育プログラムを行いました。外国講師二名が大学を訪問して下さり、それぞれの出身国の紹介をしてくださいました。国際的な体験がほぼ皆無の学生たちが20名程集まり、興味深くビデオを見ながら様々なディスカッションを英語で行いました。もちろん、英語そのものはどの学生も自信がありません。しかし、第二外国語としての英語、世界共通の言語としての英語をできるだけたくさん使って世界中の人たちと直接対話したい、そんな想いを隠せない若者たちの目は、輝いていました。モーリシャスとイエメンの講師から「英語をあきらめないで。話せるようになりたいと強く願えば必ずその日は訪れる」と励まされ、学生たちの何か心に決めたかのような表情から若い力の可能性を強く感じました。大学ができることは、今日のような機会をできるだけたくさん設けてより多くの学生に国際社会との接点を見出していくことの一言に尽きるでしょう。これからも年間の目玉行事として、どんどん国際理解教育の機会を創出していきたいと思えます。

■平成26年度 第6回・第8回

日付	平成26年11月11日(火)・12月10日(水)
実施先	所沢市立南小学校
担当者	麻生美紀教諭
対象	4年生122名
プログラムの目的	「世界に目を向けよう」 ～大切にしているものは何ですか～ 外国人講師との交流を通じて、言語のみならず文化や生活習慣を実際に学び、海外に対する関心をさらに深める機会とする。
派遣講師	Mr. Ahmed Elsayed Moustafa Hegab (エジプト) Mr. Leng Chandara (カンボジア) Ms. Andrea C Avalos S (メキシコ) 劉明全 (LIU Mingquan) (中国) *12月10日のみ参加



エジプトの講師の発表に熱心に耳を傾ける児童たち (11月11日)



カンボジアの講師が伝 (11月11日)

■平成26年度 第7回

日付	平成26年12月2日(火)
実施先	大田区立羽田小学校
担当者	吉岡康裕教諭
対象	3年生53名
プログラム	身近な食べ物を通して、世界を知ろう。～調理実習(タコスづくり)を含めた異文化理解～
派遣講師	Ms.Andrea C Avalos S (メキシコ)

■講師の感想

Ms. Andrea C Avalos S (メキシコ)

日本に来てからの2年間で国際理解教育を通じて日本の多くの児童とかわれたことに感謝している。12月2日の大田区立羽田小学校の授業では、写真を使ってメキシコについて発表をした後に調理実習(タコス作り)をした。メキシコ料理は日本人にも知られているが、メキシコのタコスはソフトシェルと呼ばれるやわらかい生地を使用する。アメリカ合衆国のハードシェル(パリパリした生地)のタコスやブリトー、沖縄のタコライス(タコライス)をメキシコ料理と誤って認識している人もいた。



羽田小学校で出会った3年生は、とてもフレッシュな考えで異文化理解の授業にのぞんでくれた。「世界青年の船」事業に過去に参加した経験を通じても言えることであるが、異文化を受け入れ、類似点を認識する力がある青年たちが、日本国内外問わず、異文化理解を促進していけば、他国をもっと理解しやすくなるであろう。



講師がメキシコの文化や小学生の生活について発表した後に児童からの質問に答える



講師がメキシコのタコスの作り方を披露した後、児童が小グループに分かれて実践する



伝統的な遊びを教え、児童たちが実践する



中国の講師が自己紹介をしながら児童の名前を中国語で読み上げる(12月10日)



カンボジアと中国の講師が国や文化について授業を行った後、児童が事前に準備した質問(講師自身の日本での異文化体験等)について答える(12月10日)

第8回「青年の船」40周年記念大会報告

平成26年11月15～16日、40周年を記念した千葉大会がホテルポートプラザちばにおいて開催され、団員、家族合わせて93名の仲間が集いました。第8回生は、帰国後、毎年各地で8回生大会を開催し、全国的な連携の実を挙げてきました。大会においては、今年度をもって全団員が還暦を迎えるとともに、船の事後活動の一つの節目として40周年を迎えるに際して、これまでの事後活動を振り返り、更なる活動を誓い合いました。

歴史的に見て、「青年の船」事業の目的は「国際的な視野を広め、国際協力の精神をかん養するとともに時代を担う中堅青年の育成を図ること」にありました。最近、安倍内閣が重要施策の一つとして「地方創生」を提唱していますが、これまで地方において頑張ってきた船の団員諸君の活動成果は、これからの創生活動の基盤になるものであり、今後さらなる貢献が期待されます。国際交流の面では、我々の船に先般ニュージーランドの総理大臣となられたヘレンさんをはじめ青少年活動の実力者が多数参加し、これまで相互交流を深めてきたことは、忘れられないことであり、我々の誇りであります。今回もニュージーランドのロビン・レイン、ケン・クーリンさんからのお祝いのメッセージが届きました。第8回「青年の船」は、来年度以降、活動をさらに活性化するための組織化を図っていきます。「求めよう 南の海にふれあう心」の合言葉をモットーにして。

なお、次回の第8回「青年の船」同窓会は、10月24日（土）～25日（日）に高知県高知市で開催します。（文責：幹事）



第14回「青年の船」in 東北大会報告



第14回「青年の船」in 東北大会(2014年9月13日～14日) 岩手県つなぎ温泉大観荘にて。
第14回「青年の船」のテーマは "Shine the Star for Tomorrow Now! Our Friendship is across the Asian Sea!"

第26回日本青年中国派遣団同窓会(箱根) 報告 派遣後10周年……そして、また次の10周年を見据えて

2014年9月13～14日、神奈川県箱根にて、第26回日本青年中国派遣後10周年の同窓会を開催。全国各地から、団員3分の1の10名が参加しました。幹事は開催に当たり、全団員にコンタクトを取るべく奮闘しました。しかし、10年間で新たな仕事や家庭を得、その中で役割を担い、なかなか時間を捻出することが難しく参加できなかった団員もいます。また、中国をはじめ、現在海外在住の団員もいました。そんな状況でも今回の同窓会のため、海外や日本のあちこちから特別にビデオメッセージなどを作成して届けてくれました。いずれも中国派遣団への溢れる愛情と思い入れに満ちたものでした。旅のハイライトは、2004年の派遣直後に製作したDVDの上映会。10年前の自分たちは、中国と日本の懸け橋になるべく懸命に努力し、現地の人々と交流し、多くの場所を訪れ、たくさん見識や発見、喜びや驚きを得ていました。当時の映像を見ながらこの派遣活動で得たさまざまな人脈、体験、感情が、10年後の今の己につながっていることを、全員が強く感じました。第26団には、これまでに各都道府県IYEO会長になった人が何人もいますし、現在も幾名が活躍中です。10年後の2024年、また新たなステージにて、派遣後20周年記念同窓会を開催できるよう、各団員とも精進していこうと思います。



今月の表紙

スリランカ教育支援プロジェクト「One More Child Goes To School」の奨学生(5年生・女子)の作品。森の中にある仏教寺院で瞑想等をしている僧が描かれています。僧たちは森から出るとはほとんどなく、村人たちの寄付によって日常の糧を得る非常に簡素な生活をしています。このような森の寺院は非常に平和な環境で、瞑想には理想的です。



編集後記

海外で行われる訪問国活動のプログラム調整も担当していますが、昨年は、激動する為替レートに毎日ドキドキしながら過ごしていました。ユーロ建ての支払いをする必要がありましたが、請求書の到着が1か月ほど遅れ、その間に1ユーロ137円だったものが、150円近くになってしまいました。為替の変動など誰にも言い当てられないのですから、しかたないですね(ふ)

MACROCOSM 1月号 vol.108

2015年1月5日発行

編集 マクロコズム編集委員会

発行 一般財団法人 青少年国際交流推進センター

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町

2-35-14 東京海苔会館6階

TEL: 03-3249-0767 FAX: 03-3639-2436

e-mail: macrocosm@iyeo.or.jp

URL: <http://www.centerye.org/> (CENTERYE)

<http://www.iyeo.or.jp/> (IYEO)

編集協力 内閣府子ども若者・子育て施策総合推進室

日本青年国際交流機構 (IYEO)

定価 210円 本体194円

印刷所 株式会社デックス

TEL: 03-3400-8089 FAX: 03-5469-5270

「ココロ花咲く、ステキな旅を。」

支店名	電話番号
札幌支店	011-221-0821
青森支店	017-723-3671
盛岡支店	019-651-8800
仙台支店	022-263-3232
秋田支店	018-866-0109
山形支店	023-641-4141
福島支店	024-523-4451
水戸支店	029-224-6627
宇都宮支店	028-636-7761
高崎支店	027-325-3201
さいたま支店	048-640-1009
千葉支店	043-243-0109
ストリームライン 新宿支店	03-5348-3500
横浜支店	045-326-1120
甲府支店	055-222-0381
新潟支店	025-243-1515
富山支店	076-431-7638
金沢支店	076-233-0109
福井支店	0776-23-2800
長野支店	026-226-4315
岐阜支店	058-263-4657
静岡支店	054-255-1919
名古屋支店	052-232-1091

支店名	電話番号
三重支店	059-221-3331
滋賀支店	077-565-0109
京都支店	075-361-5351
大阪支社第2営業部	06-6344-3927
神戸支店	078-221-1090
奈良支店	0742-23-2371
和歌山支店	073-425-3211
鳥取支店	0857-23-2001
松江支店	0852-21-5425
岡山支店	086-225-1746
広島支店	082-545-1090
山口支店	083-972-5454
徳島支店	088-622-8991
高松支店	087-851-6666
松山支店	089-941-9231
高知支店	088-825-0109
福岡支店	092-739-0010
佐賀支店	0952-26-1131
長崎支店	095-827-4151
熊本支店	096-354-5765
大分支店	097-538-1091
宮崎支店	0985-25-6111
鹿児島支店	099-257-0109
沖縄支店	098-868-8822

国際会議からご出張まで、
お問合せは、上記支店またはお近くのトップツアー各支店へ

お客様満足度100%+αを追求するサービスマインド。

お客様の立場になる「想像力」、プラスアルファを創る「創造力」。

50年の実績と豊富な情報力を駆使して

高品質・高付加価値の商品とサービスを提供するトップツアー株式会社。

私たちは、旅を通じて新しい出会いと感動を創出する

[旅行インテリジェンス企業]です。



東急観光が社名を変えました。

トップツアー株式会社

観光庁長官登録旅行業第38号 日本旅行業協会正会員・ボンド保証会員
〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-5-25 西新宿木村屋ビル16階

<http://www.toptour.co.jp>

国際旅行事業部 ストリームライン新宿支店

03-5348-3500



10450055(02)
JISQ15001:2006準拠

春風に抱かれて、感動の大海原へ。

洋上を照らす陽差しや、駆け抜ける潮風に、

春を感じる季節が訪れようとしています。

新たなる年、新たなる感動の大海原へ。にっぽん丸がお届けします。



撮影：中村 風詩人

○詳しいパンフレットをご用意しています。最寄りの旅行会社または、下記へお問い合わせください。

商船三井客船 クルーズデスクフリーダイヤル 9:30~17:00(土・日・祝はお休みです) 〒107-8532 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル5階
☎0120-791-211 <http://www.nipponmaru.jp>